

第6回名古屋市生徒会サミット 2018 実施報告書



■日時：2018年10月20日（土）10:00 開始 17:00 終了

■場所：名古屋市昭和区御器所通3丁目12番の1

御器所ステーションビル

名古屋市高齢者就業支援センター 5階 大会議室

第6回名古屋市生徒会サミット 2018

■主 催 NPO 教育支援協会東海

■共 催 名古屋市教育委員会

■後 援 名古屋市立小中学校校長会
名古屋市

■協 力

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社はじめ、地元企業サポーター

■参加校 8校 35名

大森中学校	5名
守山東中学校	3名
八幡中学校	7名
伊勢山中学校	1名
長良中学校	6名
御田中学校	5名
円上中学校	4名
大曾根中学校	4名

■高校生実行委員会 13名

新田海斗	(高3)
西尾太一	(高3)
伊藤彩乃	(高3)
辻さくら	(高3)
小林亜優	(高3)
甲斐田真希	(高3)
伊東春海	(高2)
田中美里	(高2)
鰐部琴	(高2)
加納優衣	(高2)
本木沙羅	(高1)
伊藤颯	(高1)
井上真緒	(高1)



■趣旨

名古屋市の次世代リーダー達が一堂に集い、他者や地域のことを真剣に考え、未来の名古屋に貢献できる真のグローバルリーダーを育成する。

■内容

2020 年に開催予定の中学生の祭典「チュー祭」(2015 年第 3 回サミットにおける提案)に向けて、名古屋市のリーダーとして、中学生の祭りをどんな祭りにしたいかを熟議する。

主テーマを「チュー祭をもりあげよう」とし、2018 年・2019 年の 2 年間で企画立案を行う。

■写真で振り返るサミットの日程

時間	内容
9:30 10:00	受付開始 オープニングセレモニー ■主催者あいさつ NPO 教育支援協会東海 代表理事 本多 功 今回は例年と違い、中学生の祭典「チュー祭」を盛り上げようというテーマを設定した上で、アクションプランを皆で決め、発表してもらおう。2015 年度のサミット当時は中学生だけではその実現は難しいと言われた「チュー祭」も、今、実現に向かっている。 他にも大学生の頃からのスタッフや企業の方々等、様々な大人たちのバックアップがあるので、2020 年の開催を目指して、また後に意志を引き継ぐ後輩が出てくるよう、頑張ってもらいたい。 ■アイスブレイク ①全員しゃべらずに、②ジェスチャーだけでコミュニケーションをとって、③誕生日順に並ぶアクティビティを行った。④できた順番を元に、6 つにグループ分けを行った。 

10:30

■熟議前半開始

大テーマ：「チュー祭」をもりあげよう！

前半テーマ：「4つのテーマ（防災・環境・いじめ撲滅・SNS リテラシー）を 2020 年のチュー祭で伝えよう。」

○司会 高校生実行委員会 本木沙羅

○全体ファシリテーター 高校生実行委員会 西尾太一

・目的や一日の話し合いの流れを説明



・4つのテーマを、祭りで何をしたいか（伝えたいか）、今までどんな活動をしてきたかなど、事前学習で考えてきたことをもとに交流した。



11:00

■全体交流

【環境】

登下校中に拾ったごみを校門で回収。生徒一人ひとりがひとつごみを拾えば生徒分のごみを拾えるという意見を共有。自分の学校でも使えるアイデアだと思った。

残飯を減らそうキャンペーンを実施。食事に関するアンケートをとることで、残飯を減らすことに成功。他の学校でも実施してもらいたいと思った。

【防災】

8 月中に陸前高田市と交流。被災地の現状をチュー祭で伝えたい。防災は身近でなければ伝わらない。名古屋はそういった取り組みが少ないと思う。

チュー祭では、来客者自身に防区ラインなどを示したハザードマップをつくってもらい、地元の防災意識を高めたい。また、ペットボトルを活用した防災テクニックなどを実際にブースで披露する。

【いじめ】

名古屋 ING フラッグと呼ばれるいじめに関するフラッグを黄色い旗で作成した。いじめ撲滅には雰囲気づくりが大切。いじめをテーマにした演劇などをチュー祭で伝えたい。

【SNS】

- ・ SNS は精神的にダメージを与えるもの。チュー祭ではクイズ等も企画し、SNS を通じていじめ問題を伝えたい。

【その他】

- ・ 4つのテーマを横断的にクイズにしたスタンプラリーを実施してみたらどうか。スタンプラリーを全部終えた人には何か賞品をさし上げる。



11:15

- ・ 後半で話し合っていたグループ（4つのテーマ）に移動する。
- ・ 4つのテーマ別 G で「チュー祭」でやってみたいアイデアを出し合い G でひとつ決める。
- ・ 昼休憩 昼食もテーマ別 G でとり、交流する。



ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社から今年も飲み物の差し入れが届きました。

13:00

■熟議後半開始

後半テーマ：「前半で決めたプランの計画を立てよう」

※後半は前半で決めたプランの具体的な計画を考え、作成する。

○広げる ○深める をキーワードにプランを具体化していく



15:30

■発表

【防災】

「防災」と「減災」～五感で意識改革～

防災と減災の両面が必要である。

- 1 災害はひとごとではない。
- 2 冷静に判断できるように。
- 3 学校地域の防災意識を人々につなぐ。



◎チュー祭でやりたいこと

① 災害体験

VRを用いて、映像だけでは伝わらない災害時の臨場感を体験してもらう。
被災したときの正しい判断をできるようにしてほしい。

② 体験型防災グッズ

専門家に防災グッズの使い方を教わり発信する。
中学生の説明で身近なものを使った防災グッズを作る体験をしてもらう。
クイズを織り交ぜた脱出ゲームを通して知識を学んでもらう。

※災害時に備え、人々と行政との距離を近づけたい

③ 防災シートの無料配布

地域と学校をつなぐ通学路エリアのハザードマップをつくる。

このように、来てくれた方々に楽しく学んでもらう機会を提供したい。
名古屋を防災、減災の街として発展させていきましょう。



【環境】

Gomission (ゴミッション)

◎チュー祭でやりたいこと

- ・募金キャップ集め。
- ・節水・残飯のテクニック。

※キーワード「誰でもできる環境対策」

- ・ポイ捨てを減らす。

(チュー祭会場のごみを拾って、大人のポイ捨てをなくすことを目指す。)

- ① ごみ箱が面白いアンケートの投票箱になっている。
 - ② 嵐がサクラ咲ケを歌う (アイドルグループの嵐に来てもらう)。
 - ③ サスケの開催 集めたごみに落ちるアスレチック (人気番組サスケに真似て)。
 - ④ ポイ捨てをすると、キャラクターに怒られる (キャラクターをつくる)。
- ・例えばポッカさんをスポンサーに呼んで、提供された飲み物の容器で投票をしてもらう。
 - ・緑をふやす募金
緑の羽根への募金活動を行う。成果として木が形として残るので、達成感に繋がる。
屋台のお金も募金するという案も出た。
 - ・リサイクルの大切さを伝えるため、エコキャップ活動を行う。
集めたキャップで立体のアートを作成することで、参加者に達成感を感じてもらう。
エコキャップで実際にワクチンを使った人にも参加してもらう。テレビ局が取材に来てくれることも期待できる。
 - ・その他：フリマやオークションを行い、売り上げで木や花を会場に植えたい。

このように参加者にとって楽しいものにしていきたい。
大人の方の協力も必要なので、よろしくお願いします。



【いじめ撲滅】

～いじめについての情報を集め、深刻さを改めて知ってもらう～

・いじめとは 特定の人を複数で攻撃すること。目に見える被害だけではなく、被害者の心を殺してしまう、未来を潰してしまう、ということもあり、間接的に犯罪に繋がる可能性もある。だから、いじめは絶対にやってはいけない。

・見た人がいじめられている人に声をかける→気持ちが軽くなる→自分が標的になってしまう不安は、一緒に声をかける人を集める。→そして加害者にならない。
一人ひとりの心掛けが大切。

◎チュー祭でやりたいこと

いじめについての情報を広め、深刻さを改めて知ってもらうために発信していく。

発信する手段

- ① DVD
- ② 漫画
- ③ スライド
- ④ パンフレット
- ⑤ うちわ

パンフレットを使ってより詳しく。

他にもティッシュはたくさんの人に身近に見てもらえることができる。



これらを通して、いじめの深刻さをわかりやすく伝えたい。



【SNS リテラシー】

～SNSのメリット、デメリットは紙一重～

◎学校でのプラン

生徒の体験談を募集→それをもとに有志、生徒会で劇を作成し、全校生徒に見せる。
→感想文を書き、SNSの問題について考えてもらう。

◎チュー祭でやりたいこと

伝えたいことは「メリットとデメリットは紙一重だということ」

- ① 「メリットとデメリットは紙一重」という劇を見せる（生徒の体験談をもとに）。

※ただ知ってもらうだけではなく、何か解決策がなかったか、よく考えてもらう機会となる。

- ② クイズで学ぶ（始めは楽しいと思っていたが、依存してしまったり、安全のための機能で身に危険が及ぶこともあることを知ってもらう）。

→スタンプラリー形式で迷路を進みながら SNS についての理解を深める。

→最後に答え合わせをして SNS の問題への対策を知ってもらう。

※中高生を始めとした広い世代の人たちに身近に感じてもらう。



危険を知ってもらうだけでなく、対策を紹介して理解を深めてもらう。

自分は大丈夫。「まあいっか」という他人事のひとたちに身近に SNS の危険が潜んでいること、問題が起きていることを認識してもらうことができる。



16:30

■エンディングセレモニー

講評：京都造形芸術大学 教授 寺脇 研 氏

このサミットには毎年楽しみにして来ている。

伊勢山中学校の道德の全校授業に招かれたとき、「親友が陰口を言っていたから無視しよう」ともちかけられたときどうするか？と生徒たちに問いかけた。

大人になってからもそういうことはある。葛藤やジレンマ。

SNS の発表でもあったように、いいところとわるいところがある。

みんながジレンマについて考えることが大切。いろんな考えが出てくる。

環境の Gomission では、ごみとミッションをかけている。

comission とかけたのかとも思った。Mission に、みんなでという意味の co が付く。

みんなが関わり、考えるから「チュー祭」のときもそういう姿勢が大事。

2015 年の時は、「チュー祭」が実現するとは思わなかった。

これもジレンマ。3 年前の先輩の意見を大人が受け止めてくれたんだね。高校生実行委員会のみんなもがんばってくれているね。スポンサーも大事だね。そう簡単にはなってくれない。地元の企業に応援したくなるようなプレゼンができなきゃいけない。これも「チュー祭」全体の問題。自分だけではできない。みんなでやって、また自分で考える。これからも縦（後進）に続いていく。高校生になる子も縦のつながりで支えてほしい。

今日は、みな論理的に考えていた。今日の発表を聞いて、「チュー祭」実現が近づいているのを感じる。来年ももっといい議論ができるといいな。

最後に。昨日新幹線で博多から名古屋に向かっていた。乗っていた前の列車に姫路で人身事故が起きていた。その列車に乗っていた人は降ろされた。姫路に着いたら人がたくさんいたが、ほとんど修学旅行帰りの高校生だった。

乗ってきた高校生たちは、動揺したそぶりも見せず感心した。きちんと邪魔にならないようにしていた。空席にも座らない。それは名古屋市立の高校だった。

事故はマイナス。でもこんなに素晴らしい高校生を見れた光景はプラス。

ひっくり返ることがある。逆に今日の発表は素晴らしかったが、悪かった部分も考える。

何事にも両面があるということを考えて、来年もいいプランを練って、2020 年の「チュー祭」に向かっていってほしい。また来年会えるのを楽しみにしている。

そして、サミット卒業生の高校生ファシリテーターとしての参加を歓迎する



■集合写真



17:00

終了

名古屋市生徒会のみなさん
今年も熱い熟議をありがとう！
2020年のチュー祭に向けて
若い力を結集させ
地元名古屋を盛り上げていこう！

■中学生参加者の事後アンケートより■

以下は事後のアンケートから、抜粋してご紹介させていただきます。

なお、文章の一部を抜粋しています。ご了承ください。

- 去年も参加したのですが、あまり発言できませんでした。しかし、今回は「チュー祭を盛り上げよう」というテーマでとても分かりやすかったので去年よりも多く発言できました。コストとかを考えずに好きなことを企画できるということはとても自由で楽しかったです。また、環境班のプランの中で、登校中にごみ拾いをするというのを私の学校でもやってみたいと思いました。それぞれの班が考えた企画はどれも面白くて 2020 年は高 1 になるのでチュー祭計画側に参加できないのはさびしいです。
- 今までは学校の中でしか活動していなかったけれど、サミットを通して他の学校の活動を知ることができたり、自由に意見交換ができたりして、自分の学校に繋がっていけるものがあると思った。また、実際にチュー祭に向けてのアクションプランを考えることでよりイメージがつきやすくなったし、案が考えやすくなったと思う。参加して楽しかったし、良かった。
- 今日「防災」というテーマについて話し合い、災害は全て防ぎきれものではない、だからこそ「減災」という観点で少しでも災害による被害を減らしていくことが重要だと気付かされた。そしてチュー祭でもっと周りの人に発信していきたいと思った。
- 生徒会サミットに参加する前に学校で話し合ったことが他校の生徒と話せたことでより内容を深めることができ良かった。自分の学校の生徒会は 5 人なので、今回その 2 倍の数の生徒会の役員と話すことができ学べることも多かった。
- 2 年後私は中学 3 年生で、チュー祭に参加することができるので、その時は今日話し合った結果をもとに更に積極的に参加していきたいと思いました。また、高校生になったら実行委員をやってみるのもいいなと思いました。
- 初めは会ったことない人と長い時間話すなんて大丈夫かなと思ってたけれど、始まったらすぐにグループの人とも仲良くなれて楽しく話し合えたので貴重な体験ができました。「こんな意見もあるんだ」と色々な発見もあって楽しかったです。
- 色々な学校の色々な生徒会の人たちと交流ができ、まとめる力がすごくあったり、自分の言葉をうまくまとめて分かりやすく意見していたりと、すごいな、こういう風にまとめられたら学校での話し合いや生徒会がうまく進行するなとか思うことがたくさんあった。
- 自分の学校で話していた環境問題について、広く深く話しを深められたと思う。また、自分が考えてもいなかった視点から話しができたので、これから学校でも活かしていきたい。高校生の考えは僕たちの考えていた枠を飛び越えて名古屋のために考えていたので、その発想を見習いたい。
- 去年は環境のテーマで話し合ったのですが、今年は防災という新しいテーマに挑戦して新たな知識を得ることができ、とても充実した一日になりました。熟議の時間もたくさんの意見を聞けて、自分の意見を言いやすい環境でとても楽しかったです。

- 様々な中学校と意見交換ができて、とても良い機会になりました。私は1年生で初めてだったので、緊張していて、初めのグループは同じ中学の子がいなくて1人で意見を出すのが心配でしたが、すぐに打ち解けてとても仲良くなりました。来年も参加したいと思います。
- 今回でサミットに来るのは3回目ですが、今までの2回に比べしっかりとまとまった意見が言えたので良かったです。
- 各テーマの発表を聞いていて、「紙一重」という言葉が心に残りました。この言葉はどのテーマにも言えることです。また今後の学校生活にも言えることだと思います。この様々な「紙一重」を自分の中学校でも広め。さらに深めていきたいです。
- 全ての発表を聞き、防災、環境、いじめ撲滅、SNS リテラシーそれぞれに「誰かを思いやること」が共通していると思います。誰かを思いやることは、誰かに感謝したり、挨拶をしたり、身近なところからできると思うので、実行し、より良い名古屋を作っていきたいです。
- 「チュー祭」という祭りがどんどん実現に向かっていくことに触れられてとても楽しかったです。最初は誰かわからない人たちと話し合いをすることに緊張していたけれど、話していくうちに同じ目的を持った人たちということを改めて感じることができ、緊張が解けました。
- 自分は陸前高田に行ってきた、たくさん辛いことや防災の取り組みを学んできた。今日陸前高田で学んだことが少しでも活かされて良かった。
- 実際に2020年にチュー祭をやることを話すことで、自分たちも参加している実感がわいて良かった。
- まだ2020年のことだけど、これだけの人数でこんなにもたくさんの企画ができるということは、あと2年でもっと楽しいチュー祭にしていけることができると感じ、楽しみになりました。
- 自分が考案したことがチュー祭でやるかもしれないと思うとワクワクして楽しかったです。
- 実際にできるか分からないけど、今を飛び越えた自由な意見を出し合えて面白かったです。次はSASUKEや嵐などのお金との問題についても深く考えていきたいです。
- 環境の問題って言ったってそんなの世界規模の問題でしょ。僕がこの環境というテーマについて考えるとき真っ先にそう思った。しかし、他校の人々の意見を取り入れてじっくり考えていくうちに、「身近」に起きていることが分かった。僕はこれから身近について気を配っていこうと思う。
- 出たプランのマイナスな部分だけを指摘して、廃案にするのではなく、実現するかもしれないならその話を広げていくことが大切だと学んだ。
- いじめ撲滅について話し合っただけはイメージがつかなかったけど、高校生の人たちがアドバイスをしてくださり、思ったことを思う存分話すことができ良かったです。また、発表もしっかりできました。長良に帰ったらいろいろな生徒たちにチュー祭についての話を広め、チュー祭をCOMISSONとして考え、全員で今の1年生や次の世代に案を広めていきたいです。

- 今までいじめについての授業は学校で受けてきましたが、何時間もいじめについて深く考えたことはなかったので、自分のいじめに対する価値観や見方が大きく変わった。今回学んだいじめの本質や、対処法を学校のみんなで共有すれば嫌な思いする人が減ると思う。

■おわりに

今回のサミットは 2020 年に開催予定の中学生の祭典「チュー祭」をもりあげよう！を大テーマに掲げ、今までのサミットの積み上げ（4つのテーマ（防災・環境・いじめ撲滅・SNS リテラシー）をチュー祭でどのように、また、どんなことをやってみたいかを熟議しました。年々話し合いの中身が深く掘り下げられ、今回も、どのグループも課題意識を持ち、その課題を解決するためにチュー祭で何をするかを立案し、分かりやすくプレゼンすることができました。上記のように、事後のアンケートでもほぼ全員の生徒が良い経験をしたと自己評価してくれて、主催者としても嬉しく思っています。

また、今回のアンケートでは、「2年後に高校生になっている方は高校生としてどんなことをしてみたいか」また、「高校生実行委員会に入りたいですか」という問いへの記載もお願いしました。その回答の一部をご紹介します。

- ・今日学んだ意見などを活かして2年後の中学生に伝えていきたい。
- ・高校生として全力でサポートしたい。
- ・チュー祭を高校生だからできることを活用して盛り上げていきたい。
- ・チュー祭実行委員会に参加し、チュー祭を盛り上げたいです。
- ・中学生がより意見を活発に出せるよう、サポートしたり、当日も忙しくて手が回らない時に手助けができるといいと思います。

また、高校生実行委員会に入りたいですか？の問いに「入りたい」と回答してくれた人の割合が 9 割以上でした。これは、リーダー育成を目的に事業を展開してきた弊協会としても嬉しい限りです。

ふるさとを大切に思い、利他の精神をもってふるさとのために貢献する、そのためには「自分は独りではない」という「絆」を胸に行動できる「日本の未来を担う青少年」を育成すべく、この事業をこれからも末永く継続してまいります。

今度とも名古屋市生徒会サミットにご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2018 年 11 月 20 日
NPO 教育支援協会東海 専務理事 西尾真由美